

1. クビアカツヤカミキリとは

コウチュウ目カミキリムシ科に分類される昆虫。成虫の体長は約25～40mm(幼虫は最大40mm)。バラ科の樹木(サクラ、ウメ、モモ、スモモ、ハナモモ、アンズ、ミザクラ等)を食害する害虫で、環境省により特定外来生物に指定されている。

木の樹皮の裂け目等に卵を産み付け、幼虫期に樹皮下の辺材や心材を食害し、産卵数が多く爆発的に増えることから被害は甚大で、果実収量の低下や、最悪の場合、樹木が枯死・倒壊する恐れもある。

なお、幼虫はフラスと呼ばれるフンと木屑が混じった特徴的な排出物を、木の外に大量に出す(褐色でかりんとう状、木の根元に溜まることが多い)。



クビアカツヤカミキリの成虫



クビアカツヤカミキリのフラス

2. 県内における状況と動向

県内においては7月に、大月市で初確認され、その後、甲州市・本市で相次いで発見されたことから、山梨県は、県内全域で緊急防除対策を実施することとした。

3. 本市における対応

担当課:環境部環境総室環境保全課(055-241-4312)

この虫に対する防除対策は初動が非常に重要とされており、市内のサクラ等や周辺市町村も含めた果樹を守るため、全庁を挙げて対策に取り組む必要がある。

① 補正予算(専決処分)にて、緊急の防除対策を実施

② 防除手法

○ バラ科樹木が存在する全ての民有地等について管理者(個人・事業所等)に申し込みを呼びかけ、9月末までに薬剤散布による成虫及び卵等に対する殺虫防除を行う(業者委託、一部直営の可能性もあり)

○ 市有施設や市が管理する土地内に存在する全てのバラ科樹木に対し、9月末までに、薬剤散布による成虫及び卵等に対する殺虫防除を行う(業者委託)。